

「未来への飛躍」基金の用途から一部ご紹介いたします。

01 リサーチ・クラークシップ

医学科2年生を対象に、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得するための授業です。研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mindを培うことを目的とします。国内及び海外の研究室での11週間の実習で、宿泊費の一部を本基金から助成しました。

2021年度活動報告より

旭川医科大学 先進医工学研究センターへ研究実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 山名 智尋

この度は北海道への渡航費とリサーチ・クラークシップ期間の宿泊費のご支援をいただき、ありがとうございました。旭川という奈良から遠く離れた地で、2か月間という長期間の実習を無事行うことができましたのは、「未来への飛躍」基金からのご支援のおかげです。

リサーチ・クラークシップでは、先進医工学研究センターの先生方と一緒に研究活動を行うことで、現状の課題を解決するために新たな知を求めたり、まだ誰も知らないものを生み出したりすることの面白さややりがいを感じることができました。私はずっと臨床の現場で働く医師になりたいと思い続けてきたのですが、リサーチ・クラークシップを通して研究に対する興味がとても強くなり、将来の選択肢の一つに研究者というものが加わりました。現時点では、奈良医大卒業後まず臨床医として医療に携わり、臨床の現場で見つけた課題を解決するために研究を行い、最終的に研究の成果を患者さんに還元できるような医師というものが目標とする将来像のひとつです。先進医工学研究センターでの経験がなければ、将来の選択肢に研究が加わることはなかったかと思います。旭川での実習の機会を与えてくださった「未来への飛躍」基金にはただただ感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を糧にこの先も努力を続ける所存です。本当にありがとうございました。



前列右が山名さん▼

2021年度活動報告より

金沢大学 血管分子生物学教室へ研究実習留学をしました。

(当時)医学科2年生 朝井 啓斗

リサーチ・クラークシップを通して大きく2つのことを学びました。

一つはもちろん研究のことです。高血糖ではAGEsの産生が亢進し様々な疾患に関係することは臨床で働く上で重要な知識だと思います。また今回私が実験を行ったMG検出法についても、糖化反応の中間生成物の一つであるMGの検出法が確立され病態解明や早期診断、予防・治療薬の開発に繋がると考えられ、それに私が関われば嬉しいことだと思います。授業で教わることは確立された事実のように見えますが、その裏に未だ明らかになっていないことがたくさんあることを知りました。今後そのことを頭に入れながら注意深く授業を受けようと思います。

もう一つは自分の性格に関することです。例えば帰宅時間について、実験の条件次第で終了時刻が異なり遅くまで残ることもあります。また発表の準備に関しても求める質によってどのくらい自分の時間を削るか変わってきます。研究、そして仕事に対する姿勢を改めて認識することができ、卒業後のキャリアパスを考える上でとても参考になる経験になりました。

以上のことを学べたのは、約2か月金沢で研究に集中できる環境にあったからだと思います。関西にいれば家族や同級生のことだったり、部活のことだったり他の用事で忙しくなっていたと思います。金沢で研究に集中し、自分のことについてじっくり考え、そして多くのことを学べたのは「未来への飛躍」基金の支援があったからです。このような機会を与えてくださりとても感謝しております。医学・医療に貢献し支援して下さった皆様にお返しができるよう頑張りたいと思います。

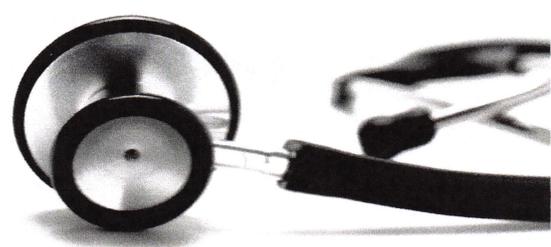
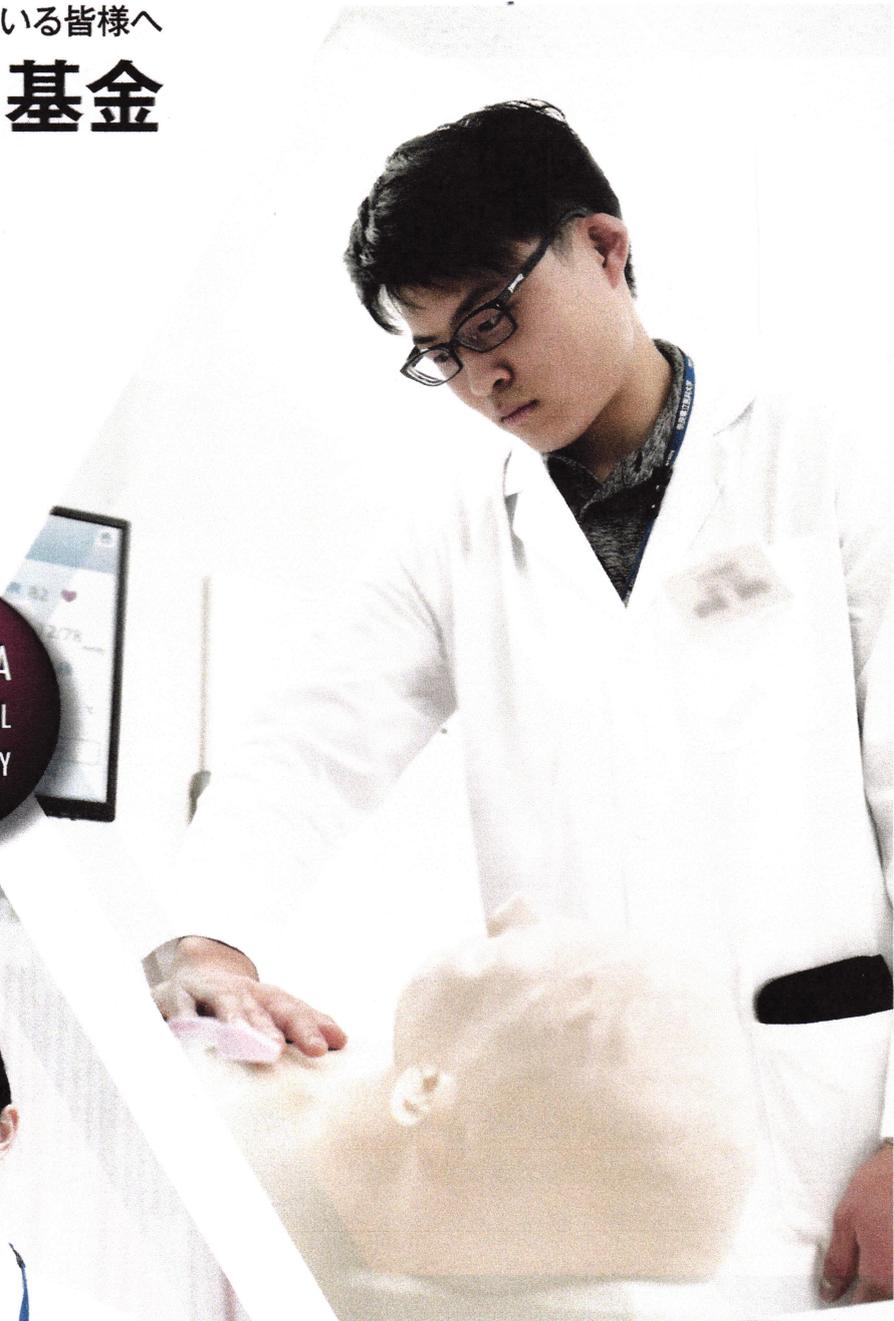


左から3人目が朝井さん▼

奈良県立医科大学をご支援いただいている皆様へ

「未来への飛躍」基金

医療の
未来へ
まっすぐに。



奈良県立医科大学
Nara Medical University